

各 位

上場会社名 原田工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 原田 修一
 (コード番号 6904)
 問合せ先責任者 執行役員 桧山 洋一
 (TEL 03-3765-4321)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 19 日付当社「決算短信」にて発表いたしました業績予想(連結)及び平成 21 年 8 月 12 日に公表した業績予想(個別)を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。又、貸倒引当金繰入額を特別損失として計上いたしますので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上内容(個別)

当社連結子会社の HARADA INDUSTRY OF AMERICA, INC 及び HARADA INDUSTRIES (MEXICO), S. A. DE C. V. の財政状態を鑑みて、債務超過分について貸倒引当金繰入額 182 百万円を、平成 22 年 3 月期第 2 四半期会計期間におきまして、特別損失に計上することといたしました。

なお、連結ではこれにかかわる特別損失は相殺消去されますので、連結業績への影響はありません。

2. 業績予想の修正

(金額の単位：百万円)

(1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,300	△555	△680	△560	△25.74
今回発表予想(B)	7,822	△368	△482	△551	△25.37
増減額(B-A)	522	187	198	9	—————
増減率(%)	7.2	—	—	—	—————
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	12,878	718	734	426	19.60

(2) 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,900	200	50	0	0.00
今回発表予想(B)	18,000	450	300	50	2.30
増減額(B-A)	100	250	250	50	—————
増減率(%)	0.6	125.0	500.0	—	—————
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	21,752	△101	△255	△766	△35.21

(金額の単位：百万円)

(3) 平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,160	△220	△70	△600	△27.58
今回発表予想(B)	4,586	76	126	△605	△27.83
増減額(B-A)	426	296	196	△5	————
増減率(%)	10.3	—	—	—	————
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	6,685	161	345	199	9.17

(4) 平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,800	40	270	△90	△4.14
今回発表予想(B)	9,900	300	380	△150	△6.89
増減額(B-A)	100	260	110	△60	————
増減率(%)	1.0	650.0	40.7	—	————
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	10,883	△347	△331	△791	△36.38

(5) 修正理由(連結)

第2四半期累計期間の売上高は、国内市場に持ち直しの傾向が見られたこと及びアジア市場での売上が増加したため、78億22百万円と前回予想より7.2%増加いたしました。利益につきましては、売上総利益は前回予想とほぼ同額でしたが、人件費・経費等の削減により、販売費及び一般管理費が1億64百万円減少したことから営業利益は△3億68百万円、経常利益は△4億82百万円と前回の予想に比べ改善いたしました。四半期純利益は法人税等が前回予想と比べ1億67百万円増加したこと等から△5億51百万円の見込みであります。

又、通期の予想の売上高は、国内市場に持ち直しの傾向が見られたことから180億円、利益につきましては、売上総利益は前回予想とほぼ同額であり、引き続き業務効率向上・固定費削減に取り組む結果、営業利益は4億50百万円、経常利益は3億円、当期純利益は法人税等が前回予想と比べ増加することが見込まれるため50百万円の見込みであります。

(6) 修正理由(個別)

第2四半期累計期間の売上高は、国内市場に持ち直しの傾向が見られたため、45億86百万円と前回予想より10.2%増加いたしました。利益につきましては売上の増加により、売上総利益が前回予想と比べ1億82百万円増加したこと並びに人件費・経費等の削減により、販売費及び一般管理費が1億14百万円減少したことから営業利益は76百万円、為替差損の計上及び関係会社からの配当の見送り等により営業外損益が99百万円減少いたしました。経常利益は1億26百万円となり前回の赤字の予想から黒字に転換いたしました。四半期純利益は、「1. 特別損失の計上内容」に記載した2社に対する貸倒引当金繰入額を第2四半期会計期間において前回予想より1億18百万円追加計上すること並びに法人税等が前回予想と比べ89百万円増加したこと等から△6億5百万円の見込みであります。

又、通期の予想の売上高は、国内市場に持ち直しの傾向が見られたことから99億円、利益につきましては、売上総利益は前回予想とほぼ同額であり、引き続き業務効率向上・固定費削減に取り組む結果、営業利益は3億円、経常利益は3億80百万円、当期純利益は貸倒引当金繰入額を計上すること並びに法人税等が前回予想と比べ増加することが見込まれるため△1億50百万円の見込みであります。

(注) 本資料に記載の予想数値は、発表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上